

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
経専北海道保育専門学校	昭和55年11月5日	中田靖泰	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人経専学園	昭和48年4月24日	倉田 恵	〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 (電話) 011-824-1000																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども学科	平成二十三年文部科学省 告示第百六十六号	-																				
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																							
認定年月日	平成26年3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																	
	2年	94単位	43単位	117単位	12単位	0単位	1単位																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
240人	175人	0人	8人	42人	50人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第9条により優、良、可、不可																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日	卒業・進級条件		学則第21条による 卒業判定会議及び進級判定会議で決定																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施		課外活動		■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等 ■就職指導内容 履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、就職セミナー等		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する2019年5月1日時点の情報)																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>89人</td> <td>89人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>73人</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>73人</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>折紙講師資格</td> <td>②</td> <td>89人</td> <td>88人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	89人	89人	幼稚園教諭二種免許	①	73人	71人	社会福祉主事任用資格	①	73人	71人	折紙講師資格	②	89人	88人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																					
保育士	①	89人	89人																					
幼稚園教諭二種免許	①	73人	71人																					
社会福祉主事任用資格	①	73人	71人																					
折紙講師資格	②	89人	88人																					
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成30年4月1日時点において、在学者175名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者169名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、身体的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討		■中退率 3.4%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時の奨学生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の10%程度)特待生600,000円授業料免除、給費生300,000円授業料免除、特別推薦生100,000円授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科のホームページURL	http:keisen-hoiku.com																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等につ

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、教務主任から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会 会長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	ふとみ保育所 園長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
沢向則子	経専北海道保育専門学校 こども学科	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催、開催時期は概ね前期(4月～9月)1回・後期(10月～3月)1回

(開催日時)

第2回 平成26年1月24日 14:00～14:45	第7回 平成28年11月15日 13:30～14:30
第3回 平成26年12月1日 15:00～16:00	第8回 平成29年7月28日 15:00～16:40
第4回 平成27年6月11日 13:30～14:30	第9回 平成29年12月11日 15:00～17:00
第5回 平成27年10月7日 13:30～14:50	第10回 平成30年7月30日 15:00～16:30
第6回 平成28年6月28日 14:00～15:00	第11回 平成30年12月10日 15:00～16:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員より学んだ技術をどれだけ活用できるのか、応用できるのかということが大切になってくるので、実践する機会を多く設けてもらいたいとの意見があり、「保育演習Ⅰ」で実際に保育施設へ訪問し子ども達と関わる機会を多くした。また、子ども達の反応などを振り返り、授業で学んだ技術をどのように応用する必要があるかを復習し、次の訪問に繋げた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)実施。実際の保育現場で実践している保育士の活動例を紹介し、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶとともに、保育園のホールでの活動を想定した演習(ロールプレイ)を実施。成績評価については、出席状況や受講態度と合わせて、授業で学んだ内容を実際の子ども達の姿や保育場面に結びつけて総合的に理解できたか、レポート(1,500文字程度)と記述式試験にて優、良、可、不可の4段階で評価していただくこととしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。

- ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する
 全国保育士養成協議会全国大会(年1回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年1回参加)
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)
- ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換(年2回)を実施する
- ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を前期(4月～9月)1回以上、後期(10月～3月)1回以上実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会全国大会 平成30年9月14,15,16日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成30年12月4日

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成30年12月21日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会全国大会 2019年8月29,30日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 2019年10月予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 2019年7月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員より、保育士の処遇改善は、ここ数年少しずつ行われており国の対策の重点項目にもなっているので今後も期待できる。賃金だけでなく、勤務体制について見直しをしている園も多く、働きやすい環境の整備も順次整っていくと思われる。これらの情報を高校生やその保護者に正確に伝えていただき、一人でも多くの学生を確保し、保育現場へ優秀な人材を供給してもらいたいという意見をいただいた。

対応：学生募集活動を行う際に、高校生からの資料請求時には保護者宛に保育業界の現状を伝える手紙を送付し、オープンキャンパスでの学校説明時にも待遇や働く環境が向上していることを強調して伝えることとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
----	----	----	----

鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())、公表年月日:平成30年7月19日

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2)各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3)教職員	教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8)学校の財務	財務諸表等
(9)学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1前	30	2	○			○			○	
	○		比較憲法	中華圏の国の憲法体制を知る。また、中国（中華人民共和国）及び台湾（中華民国）の憲法体制について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1前	30	2	△	○		○			○	
○			英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1後	30	2		○		○			○	
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
○			スポーツ（実技）	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1前	30	1			○	○			○	
○			保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。	1後	30	2	○			○			○	
○			こども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。子どもの人権擁護や子ども家庭福祉の制度・実施体系・現状と課題について理解を深め、動向と展望について考察する。	1後	30	2	○			○			○	
合計															単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
	○		こども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的の理解を基礎とし、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解を深める。	2後	30	2		○		○				○
○			社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1前	30	2	○			○				○
○			保育者論	1. 保育者の役割と倫理の理解 2. 保育士の制度的な位置づけの理解 3. 保育士の専門性についての考察及び理解 4. 保育者の連携・協働の理解 5. 保育者の資質向上とキャリア形成についての理解の5項目の習得を目的とする。	1前	30	2	○			○				○
○			保育の心理学	幼稚園、保育園における園児とのかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。特に子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基本的な理解を促すことを目的とする。	1前	30	2	○			○				○
○			こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解する。親子関係や家族関係等について発達の観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1後	30	2		○		○				○
○			こどもの保健	小児の成長発達と生理機能のダイナミズム、その過程で生ずる先天異常、健康保持増進のための予防接種、小児がおこす事故と安全対策について、理解が深まるように学んでいく。	2前	30	2	○			○				○
○			こどもの食と栄養	、乳幼児期の健康と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、保育者として、子どもに適切な食事を提供する意義と食生活等関連するガイドライン等を踏まえ理解する。	2前	30	2	○			○				○
○			保育の計画と評価	カリキュラムの構成理論についての理解を踏まえ、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法やこどもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。	2前	15	1		○		○		○	○	
合計								単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	前・後期
		1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育内容総論	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全般を理解し、各領域を総合的に捉える視点について学ぶ。保育の基本を踏まえた保育内容に展開について具体的な保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（健康）	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（人間関係）	子どもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深める。	1後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（環境）	環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を上げて学習していく。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（言葉）	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、子どもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。	1後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（リズム表現）	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、子どもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（言語表現）	「表現」の内容を主軸として、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身に付ける。	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法（造形表現）	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する。さらに材料、用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	1後	15	1	○			○			○	
○			絵本・紙芝居Ⅰ	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境と、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養う児童文化財（絵本、紙芝居、ストーリーテリング等）について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
合計					単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びができる知識及び実践力を理論的に深める。	1後	15	1	○			○			○		
○			乳幼児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について学ぶ。また、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題や3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	1後	30	2	○			○			○		
○			乳幼児保育Ⅱ	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	2前	15	1	○			○			○		
○			こどもの健康と安全	子どもの健康状態の観察や発育、発達とその評価等について基本的な知識を学び、実際に体験する。実習においては、沐浴実習、調乳の実習、身体測定の実習、実践活動を重視、さらに子どもの事故と応急処置等を行う。	2後	15	1	○			○				○	
○			障がい児保育	障がいのある子どもたちと関わる為に必要な知識や支援の方法等を学ぶ。保育場面における日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解する。相談機関等の種類と内容を理解し、個別援助の概略と保護者を中心とした支援の内容を理解する。	2後	30	2	○			○				○	
○			社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	15	1	○			○				○	
○			子育て支援	子育て支援の意義と原則、子育て支援の基本を理解し、子どもの健やかな育ちをめざした保護者支援の理論・技術を演習課題や事例を通して学習する。	2後	15	1	○			○				○	
○			保育実習Ⅰ(保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	1後	80	2	○				○			○	○
○			保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所及びその他の児童福祉施設等)について目的や概要を理解し、福祉職として保育士の役割を学ぶ。保育実習の心構えと準備、事後の学びとして総括・評価を経て、自己課題を明確にする。	1通	30	2	○			○				○	
合計					単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育・教職実践演習	本学における教育課程の全体及び保育実習等の体験を通して、専門知識と技術、総合的判断力、倫理観等の習得について学びを振り返る。現代的課題についての現状を知り、対応及び保育士、保育現場、地域等に求められることについて、多様な視点から考察する。	2通	30	2	○			○			○	
○			保育所保育指針 I	平成29年3月に改訂された保育所保育指針のポイントを総則から保育内容、健康及び安全の各章について、具体的な事例を交えながら学び、保育所において子どもの健やかな育ちをどう保障していくのか考察する。	2後	15	1	○			○			○	
○			特別支援教育	特別な保育・教育ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を学ぶ。子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別的教育試験計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深める。	2前	15	1	○			○			○	
○			環境論	具体的な環境事例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける。	2前	15	1	○			○			○	
	○		日誌指導 I	実習日誌の必要性及び記録の方法について模擬日誌作成の演習を通し、具体的に理解する。実習後の総括と自己評価及び課題の明確化につながる記録としての日誌の位置づけについても理解する。	1通	30	2	○			○			○	
	○		ピアノ I	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスンでピアノを使用して学び、基礎的技術を習得する。初心者はバイエル教則本、経験者は個人のレベルに合った教則本を使用し、演奏技術及び読譜力の向上を目指す。	1通	30	2	○			○			○	○
○			ピアノ II	ピアノ I を踏まえ、更に演奏技術及び読譜力の向上を目指す。初心者の習得目標はバイエル教則本100番とする。	2通	30	2	○			○			○	○
	○		こどものうた I	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。「こどものうた200」を教本とし、園生活、行事、うたあそびなどから個人のレベルに合った課題曲の個人レッスンを受け、弾き歌いの技術・技能を習得する。	1後	30	2	○			○			○	○
○			保育活動 I	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。手遊びや見立てあそび、ごっこ遊び、運動遊びなど、保育士や他のこどもとの関係や集団の中での体験を豊かにするための知識と技術を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
合計					単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		パネルシアター	こどもの生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。児童文化財(パネルシアター)に親しむ体験を豊かにするための知識と技術を習得する。素材の特性の理解とそれらの活用や作成に必要な知識及び技術を製作活動を通して学ぶ。	1前	15	1	○			○				
	○		合奏指導	本講義では、歌、器楽合奏などを通じて幅広く幼児音楽に関わる知識と技術を習得することを目的とする。幼児音楽で使用される楽器や歌、それらの指導法などを保育者としての視点から、学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	
○			保育実習Ⅱ(保育所)	保育所にてクラスに入り、保育所保育の目標、内容、方法、評価について作成した指導案を基に、具体的に学ぶ。また、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。	2前	80	2	○			○	○	○		
	○		保育実習Ⅲ(施設)	保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能等について、理解を深める。	2前	80	2	○			○	○	○		
	○		保育実習指導Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅱ(保育所)について目的を理解し、保育実践力を培う。保育実習Ⅰを踏まえた保育の改善を実践を通して学び、総括・自己評価を経て、保育に対する課題を明確にする。	1後	15	1	○				○	○		
	○		保育実習指導Ⅲ(施設)	障がい児・者の支援についての理解・支援の実践を知り、実習に向けて意義と目的を理解する。障がい児・者施設での実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	1後	15	1		○		○	○	○		
	○		手作りおもちゃⅠ	布の扱い方や縫い方を実践し、技術を取得する。保育実習に向けての名札を作成する。	1通	30	2	○			○			○	
	○		折紙	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
	○		日誌指導Ⅱ	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学び、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。(保育士コース未開講)	2前	15	1	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ペン字	ひらかな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書、履歴書の完成を目指す。	1前	15	1	○			○			○	
○			ピアノⅢ	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。	2前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅣ	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。(保育士コース未開講)	2後	30	2		○		○				○
○			こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。(保育士コース未開講)	2前	15	1		○		○				○
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する	2後	30	2		○		○				○
○			就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策(履歴書指導、面接指導、マナー等)を行い、志望先に就職することを目指す	2通	30	2		○		○				○
○			パソコン	具体的な保育事例をもとに演習を行う。デジカメ・USBメモリ・CD-ROM・プロジェクターなどの使用方法、パソコンを使用するうえでのルールとマナーを学習する。	2後	15	1		○		○				○
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深め、こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	2後	15	1		○		○				○
	○		保育所保育指針Ⅱ	保育所保育指針に引き続き、沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2後	15	1	○			○				○
合計															
											単位時間(単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもと体育	体育遊びを実践的に学び、指導方法やこどもの運動発達について理解を深める。こどもの成長、発達と運動の関係について学び、体育遊びを実際に体験し、自らが行うことで、こどもの気持ちに寄り添うことが出来る様にする。	2前	15	1	○						○	
	○		こどもと食育	こどもの離乳食やおやつなど、こどもの様々な食育活動について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○		○				○	
	○		カリキュラム立案	カリキュラム立案の大切さを理解し、幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。(保育士コース未開講)	2前	15	1	○		○			○		
	○		こどもの指導法「音楽表現」	領域「表現」は幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通じた様々な表現活動のあり方や実践の方法を具体的に理解する。	2前	30	2	○		○					○
	○		教育実習事前・事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	1後	10	0	○		○					○
	○		音楽表現論	子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての完成を養う。子どもが表現することの楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的技能を身に付ける。	1前	15	1	○		○					○
	○		造形表現論	幼児造形の指導・援助者としての形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について理解する。また、技法に伴った材料、用具の特性と利用について理解を深める。	1前	15	1	○		○					○
	○		人間関係論	人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。	1後	15	1	○		○					○
	○		教育実習	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。(保育士コース未開講)	2前	160	4			○		○			○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任		
	○		教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ（保育士コース未開講）	1後	30	2	○			○			○		
	○		幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。（保育士コース未開講）	2後	30	2	○			○		○			
	○		教育課程論	教育課程に関する基本的な知識を学び、保育の専門職としての基礎を培う。（保育士コース未開講）	2前	15	1	○			○				○	
	○		教育方法論	世界および日本の教育方法の歴史を学び、著名な教育学者とその教育方法についての知識を身につける。身に着けた知識に基づいた実践ができることを目的とする。（保育士コース未開講）	1後	15	1	○			○				○	
	○		こどもの理解と相談支援	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○		
	○		障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。（保育士コース必修）	2後	15	1	○			○				○	
	○		手話	手話で日常会話を学び、聴覚障害者の文化や生活上抱える問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。（保育士コース必修）	2後	15	1	○			○				○	
	○		保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現や、他の英語では学ぶことができない幼児言葉・わらべ歌などを身につける	2後	15	1	○			○				○	
	○		保育所保育指針Ⅱ	保育所保育指針に引き続き、沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2後	15	1	○			○				○	
	○		人形劇	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。	2後	60	4	○			○				○	
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力（ピアノ、歌、踊り、製作など）を活かし、発表する。	2後	60	4	○			○				○	
	○		育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。	2後	60	4	○			○				○	

	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		絵本紙芝居Ⅱ	大型絵本（内容、絵、仕掛け等をすべてオリジナル）を製作し、学期末の発表会で担当を決めて発表する。表現力、創作力を洗練し、グループ作業により協調性も養われる。	2後	60	4		○			○	○		
	○		ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。	2後	60	4		○			○	○		
	○		手作り教材	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1		○		○			○	
	○		ピアノⅤ	幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1		○		○			○	
	○		人形劇	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。	2後	60	4		○		○			○	
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力（ピアノ、歌、踊り、製作など）を活かし、発表する。	2後	60	4		○		○			○	
	○		ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。	2後	60	4		○			○	○		
	○		育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。	2後	60	4		○		○			○	
	○		教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。（保育士コース未開講）	2通	60	4		○		○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。(保育士コース未開講)	2通	60	4	○			○				
	○		教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。(保育士コース未開講)	2通	30	2	○			○				
	○		こどもと看護	こどもの感染症やけが及び投薬など保育士としての基本的な対応方法を学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
	○		こどもと食育	こどもの離乳食やおやつなど、こどもの様々な食育活動について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
	○		赤ちゃんと発達	乳児(生後1年未満)の発達や月齢にあったかわりやおもちゃなどについて学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
	○		子育て支援	近隣の子育て家庭を学校に招き、保護者とこどもと一緒に楽しめるあそびを企画し実践。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
	○		発達支援論	子どもの成長発達に関する諸問題について、その背景、対応、今後の課題、保育者の役割について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	1後	15	1	○			○				
	○		手作り教材	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
	○		ピアノⅤ	幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		こどものうたⅣ	より豊かな表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1	○			○			○	
	○		介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。（保育士コースのみ開講）	2後	15	1	○			○			○	
	○		保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。（保育士コースのみ開講）	1通	60	4	○			○			○	
	○		保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ（保育士コースのみ開講）	2後	30	2	○			○			○	
	○		保育演習Ⅲ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。（保育士コースのみ開講）	2後	30	2	○			○			○	
	○		保育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
	○		保育実践Ⅱ	保育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
	○		保育実践Ⅲ	保育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。	2後	30	3	○			○			○	
	○		教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。（保育士・幼稚園教諭コースのみ開講）	2通	60	4	○			○			○	
合計															
					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。 (保育士・幼稚園教諭コースのみ開講)	2通	60	4	○			○				
	○		教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。 (保育士・幼稚園教諭コースのみ開講)	2通	30	2	○			○				
合計						107科目	2,984単位時間(171単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
経専北海道保育専門学校	昭和55年11月5日	中田靖泰	〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人経専学園	昭和48年4月24日	倉田 恵	〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 (電話) 011-824-1000																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども未来学科	平成二十三年文部科学省 告示第百六十七号	-																						
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
3	昼間	131単位	37単位	120単位	13単位	0単位	1単位																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120人		66人	1人	8人	60人	68人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日			卒業・進級 条件																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施			課外活動																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3																						
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、 就職セミナー等																									
■卒業者数 : 31 人 ■就職希望者数 : 30 人 ■就職者数 : 30 人 ■就職率 : 96.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 %			■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア																							
■その他 ・卒業後結婚 1人			■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する2019年5月1日時点の情報)																							
(平成 30 年度卒業生に関する 2019年5月1日 水曜日 時点の情報)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>31人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>31人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>31人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>折紙講師資格</td> <td>②</td> <td>31人</td> <td>31人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	31人	31人	幼稚園教諭二種免許	①	31人	31人	社会福祉主事任用資格	①	31人	31人	折紙講師資格	②	31人	31人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
保育士	①	31人	31人																							
幼稚園教諭二種免許	①	31人	31人																							
社会福祉主事任用資格	①	31人	31人																							
折紙講師資格	②	31人	31人																							
■自由記述欄			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 平成30年4月1日時点において、在学者76名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者73名(平成31年3月31日卒業生を含む)			■中退率 3.9%																						
■中途退学の主な理由 進路変更、身体的理由等																										
■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時の奨学生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の10%程度)特待生600,000円授業料免除、給費生300,000円授業料免除、特別推薦生100,000円授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	http:keisen-hoiku.com																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めず、臨時の仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等につ

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。

- ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」
- ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」
- ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、教務主任から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会 会長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	ふとみ保育所 園長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
沢向則子	経専北海道保育専門学校 こども学科	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催、開催時期は概ね前期(4月～9月)1回・後期(10月～3月)1回

(開催日時)

第2回 平成26年1月24日 14:00～14:45	第7回 平成28年11月15日 13:30～14:30
第3回 平成26年12月1日 15:00～16:00	第8回 平成29年7月28日 15:00～16:40
第4回 平成27年6月11日 13:30～14:30	第9回 平成29年12月11日 15:00～17:00
第5回 平成27年10月7日 13:30～14:50	第10回 平成30年7月30日 15:00～16:30
第6回 平成28年6月28日 14:00～15:00	第11回 平成30年12月10日 15:00～16:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員より養成校に取り入れてもらいたい保育技術について、保護者とのコミュニケーションに苦勞する職員が増えているため、コミュニケーション対策を行うことはできないかとの意見があり、3年次科目「保育者のマナー」にて保護者や職員間を想定したコミュニケーション演習を取り入れるようにした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携している保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)実施。実際の保育現場で実践している保育士の活動例を紹介し、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶとともに、保育園のホールでの活動を想定した演習(ロールプレイ)を実施。成績評価については、出席状況や受講態度と合わせて、授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結びつけて総合的に理解できたか、レポート(1,500文字程度)と記述式試験にて優、良、可、不可の4段階で評価していただくこととしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等

保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。

- ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を計画的に派遣する
 全国保育士養成協議会全国大会(年1回参加)、北海道幼稚園教諭養成校協会実習委員会(年1回参加)
 北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修(年2回参加)
- ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換(年2回)を実施する
- ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を前期(4月～9月)1回以上、後期(10月～3月)1回以上実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会全国大会 平成30年9月14,15,16日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成30年12月4日

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成30年12月21日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会全国大会 2019年8月29,30日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 2019年10月予定

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 2019年7月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員より、新卒の職員について基本的な礼儀や挨拶、コミュニケーション能力が不足していると感じる。保育の知識・技術をさることながら、社会人としての常識を完璧とまではならなくてもできるだけ身につけて送り出してもらいたいという意見をいただいた。

対応: 学校としても問題意識を持って取り組んでいたが、ご意見をいただき改めて各学年でのホームルームや、就職指導の授業、保育者の心得の授業、保育者のマナーの授業にて社会人としての常識や立ち居振る舞い等について繰り返し指導を行うこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())、公表年月日:平成30年7月19日

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.keisen-hoiku.com>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 践	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1 前	30	2	△	○		○			○	
○			英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1 後	30	2		○		○			○	
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			スポーツ(実技)	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1 前	30	1			○	○			○	
○			保育原理	「保育」を考える基本的な視点を養うために、保育の意義や目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針など多様な側面から学びを深めることを目的とする。	1 前	15	1	○			○			○	
○			社会福祉論	社会福祉の意義や歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援に触れ、その意義や制度体制について理解を深めるとともに、子ども家庭福祉との関連についても学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			教育原理	保育の意義と目的、法令及び制度など保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題についての認識を深める。	1 前	15	1	○			○			○	
○			社会的養護 I	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学ぶ。さらに、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本や制度・実施体系・現状と課題について理解を深める。	1 前	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			こども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的の理解を基礎とし、保育の専門性を活かしたこども家庭支援の意義と基本について理解を深める。	1前	15	1	○			○			○	
○			発達心理学	子どもたちの心を良く理解し、適切な保育・教育・養育・指導をするための心理学的な視点の重要性を学ぶ。	1後	15	1	○			○				○
○			教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ	1後	30	2	○	△		○				○
○			こどもの指導法(言葉)	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先進となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深める。文学への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についての意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。	1後	15	1		○		○				○
○			こどもの指導法(リズム表現)	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学ぶ。	1後	15	1		○		○				○
○			音楽表現論	子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。	1前	15	1		○		○				○
○			言葉とこどもの文化	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深める。また、その利用の仕方について理解する。	1前	15	1		○		○				○
○			造形表現論	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。	1前	15	1	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任		
○			人間関係論	人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践におかれ、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、子どもの発達に応じた保育のあり方を考える。	1後	15	1	○			○			○		
○			こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解する。親子関係や家族関係等について発達の観点から理解を深め、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	1前	10	0	○			○				○	
○			保育実習指導Ⅰ	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。	1後	15	1	○			○				○	
○			乳幼児保育Ⅰ	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について学ぶ。また、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題や3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	1後	15	1		○		○				○	
○			乳幼児保育Ⅱ	3歳未満児の発達・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方の基本的な考え方について学ぶ。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	2前	15	1	○	△		○				○	
○			保育内容総論	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全般を理解し、各領域を総合的に捉える視点について学ぶ。保育の基本を踏まえた保育内容に展開について具体的な保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。	1前	15	1		○		○				○	
○			教育課程論	幼児を育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手立て（方針）、どのような内容で、どの時期に、どのような環境で、など等を学ぶ。	2前	15	1	○			○				○	
○			教職論	教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。	2前	15	1	○			○				○	
○			教育方法論	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関連性についての理解を深める。教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を深める。	2後	30	2	○	△		○				○	
合計				科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			障がい児保育	個々の障がい特性を理解し、障がい児だけではなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に付ける。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの理解と援助	こども理解を深めるための様々な視点や方法を学とともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもと造形	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。	2前	15	1	○			○			○	
○			こども家庭支援論	子育て家庭を取り巻く様々な社会状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの保健	小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
	○		こどもの食と栄養	乳幼児期の健康と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、保育者として、子どもに適切な食事を提供する意義と食生活等関連するガイドライン等を踏まえ理解する。	2後	15	1	○			○			○	
○			社会的養護Ⅱ	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。施設養護及び家庭養護の実際や社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家庭支援について理解する。	2前	15	1	○			○			○	○
		○	こどもの指導法「健康」	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発達状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもの指導法「環境」	こどもは、家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園などでの生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。	2後	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 践	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○	○		こどもの指導法「造形表現」	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。	2 前	10	0	○			○			○	
○	○		こどもの理解と相談支援	幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。	2 前	10	0	○			○			○	
○			教育実習事前事後指導	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	2 後	15	1	○			○			○	
○	○		表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。	2 後	15	1	○			○			○	
○	○		こどもの指導法「言語表現」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を話し合い、解決する力を身につける。	3 前	15	1		○		○			○	
○			特別支援教育	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解する。子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深める。	2 後	15	1	○			○		○		
○	○		環境論	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。	1 後	15	1	○			○			○	
○	○		こどもの健康と安全	現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。保育現場における感染症・事故防止・安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。	1 後	15	1	○			○			○	
○			子育て支援	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。	3 前	30	2		○		○			○	
合計					単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
	○		こどもの指導法「音楽表現」(第1・2・3教程)	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通じた様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。	2前	30	2			○	○		○		
	○		保育実習指導Ⅱ	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。	2前	15	1			○	○		○		
	○		保育実習指導Ⅲ	施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。	2前	15	1			○	○		○		
	○		保育実習Ⅰ(保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2前	80	2				○		○		
	○		保育実習Ⅰ(施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3前	80	2				○		○		
	○		保育実習Ⅱ(保育所)	保育所の生活に参加し、保育内容、機能を学ぶ。保育現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	2前	80	2				○		○		
	○		保育実習Ⅲ(施設)	施設の生活に参加し、支援内容、機能を学ぶ。現場での体験を通して、保育士としての職業倫理とこども最善の利益について具体的に学び、保育士の役割について理解を深める。	3後	80	2				○		○		
	○		教育実習Ⅰ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学ぶ。	3前	80	2			○	○		○		
	○		教育実習Ⅱ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学びを深める。	3前	80	2			○	○	○	○		
	○		保育実践Ⅰ(保育所)	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	3通	45	3		○		○		○		
	○		保育実践Ⅰ(施設)	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ。	3通	45	3		○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										
卒業要件及び履修方法										授業期間等					

	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実践Ⅱ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	3通	45	3		○		○				
	○		教育実践Ⅰ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	3通	45	3		○		○				
	○		教育実践Ⅱ	教育実践Ⅱを基礎とし、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。	3通	45	3		○		○				
	○		保育・教職実践演習	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。	3前	15	1		○		○				○
		○	地域ボランティア	地域の児童福祉施設や社会福祉活動などへの活動を通して、教職を目指すものとしての自覚を高め、実社会の中での人間関係の構築について実践的に学ぶ。	3通	45	3		○			○	○		
		○	教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ	3後	4	0	○			○				○
		○	こどもと環境Ⅱ	自分自身の生活・家庭・教育（保育）環境等を振り返る中で、子どもにとって必要な環境を学習する。	3後	15	1		○		○				○
		○	こどもと健康Ⅱ	領域「健康」の考え方、健康にかかわる子どもの生活実態について学び、理解を深める。さらに、園内の安全管理と指導・援助についても学習する。	3後	15	1		○		○				○
		○	こどもと人間関係Ⅱ	テーマ「人間関係の基礎は何か」に基づいて学生一人ひとりが考え研究し、意見交換をする中で研究内容について深める。	3後	15	1		○		○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実支	校内	校外	専任	兼任	
		<input type="radio"/>	発達障害児論	知的障害、広汎性発達障害、学習障害、注意／欠陥多動性障害、などを取り上げ、医学的診断、症状、支援方法、保護者・家族への支援について学習する。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	発達検査法	「発達」の基本を理解し、さらに発達検査の基本理念と検査方法について学ぶ。また、発達検査の結果や内容について保護者等への具体的説明方法を演習を通して学ぶ。	3後	30	2		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	教育制度・行政論	学校教育制度・教育行政の基本理念・体系について、日本国憲法、教育基本法、学校教育法などの教育関連法規を通して体系的に理解を深める。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	教育相談の理論と方法	教育相談およびカウンセリングの意義、目的、理論背景、技法などについて理解を深め、発達年齢によって異なる心理的問題についての理解と、心理的援助の実際について学ぶ。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	臨床子ども学	知的には劣っていないが、支援を必要とする子どもについて学ぶ。不注意・注意欠陥性、衝動・多動性、自閉症、学習障害傾向にある子どもたちを正しく理解する。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	子どもと造形表現Ⅲ	子どもの成長過程における多様な表現に関しての感性を育てるために幅広く表現の意義とその必要性を理解し、保育所・指導者としての知識、力を磨く。	3後	15	1		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	体育理論	人体の基本的な構造及び機能について、神経、運動、呼吸器、循環系などに分けてその発達過程を理解し、健康的な身体の発育発達を支援する上で必要な身体運動に関する理論を学ぶ。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	音楽理論	音楽学習の基礎となる音楽理論を理解し、保育や幼児教育の場で活用できる基礎的知識を学ぶ。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
		<input type="radio"/>	英語コミュニケーションⅡ	新聞などに掲載された医療・健康・科学関連の教材を通じて、トピックについて実践的な英語読解力を養成し、類推力を働かせながら重要な情報を素早く読み取る力を養成する。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>				<input type="radio"/>
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
		<input type="radio"/>	国語	様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げ深める。優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てる。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	生活	生活科の教育目標・内容方法について、いくつかの領域の具体例について検討することで、その理論的・実践的な理解を図る。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
		<input type="radio"/>	こどもと言語表現	絵本やペープサートを実際に作成し実践する中で、児童文化財と言葉の関係について学びを深める。子どもと言葉について学生同士がグループ討議し実践検討する。	3後	4	0	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			文章基礎講座	レポート作成にむけて、文章の基礎、原稿用紙の使い方、レポートの書き方など身に付ける。さらに、基本的な文章、漢字が書けるようにする。	1前	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			手芸の基礎	保育実習及び「手作りおもちゃⅠ」の講義に向け、手芸の基礎を身につけるべく、各種縫い方、ボタンの付け方等を実践し、技術を習得する。	1前	15	1	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			保育所保育指針の基礎	保育所保育指針を学び、基礎的な知識を習得する。さらに、保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。	1前	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			幼稚園教育要領の基礎	幼稚園教育要領(平成21年4月施行)について概要や内容を知り、保育を学ぶ者として必要な知識を身に付ける。	1前	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			手づくりおもちゃ	実習に向け、現場での最低限の布の扱い方や縫い方を学ぶ。	1後	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
<input type="radio"/>			幼児の音楽Ⅰ	歌、器楽合奏など通じて幅広く幼児音楽を習得する。	1通	30	2	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 践	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			折紙 I	折紙の基本となる8つの基本形を習得し、身近な題材を折る。また、折り方の過程を作成し、折紙ファイルを作成する。	1 前	30	2	○			○				
○			保育活動 I	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	1 前	30	2	○			○				
○			指導計画 I	各年齢に合った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ。	1 後	30	2	○			○				
○			パネルシアター I	パネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。	1 前	30	2	○			○				
○			パネルシアター II	視聴覚教材の一つであるパネルシアターを製作、実践することにより、効果的な活用方法を学び、今後の実習に活かす。	1 後	30	2	○			○				
○			ペン字 I	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す	1 後	15	1	○			○				○
○			絵本・紙芝居 I	乳幼児の発達における絵本の役割を理解し、保育現場での効果的な活用方法を学ぶ。	1 後	15	1	○			○				
○			日誌指導 I	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ。	1 後	30	2	○			○				
○			ピアノ I	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。	1 前	30	2	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			ピアノⅡ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。初心者はいエル修了を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			折紙Ⅱ	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	2後	30	2	○			○			○	
○			保育活動Ⅱ	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術（手遊び、歌遊び、ゲーム、鬼ごっこ、ダンス等）や指導の仕方を身につけ、学ぶ。	2前	15	1	○			○		○		
○			指導計画Ⅱ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、自ら立案をする力を身に付ける	2前	15	1	○			○		○		
○			施設実習論Ⅰ	施設実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
○			日誌指導Ⅱ	保育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			カリキュラム立案Ⅰ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、年齢ごとの部分案を立案する。	2後	30	2	○			○		○		
○			エプロンシアター	教育実習（幼稚園）に向けてエプロンシアターを作る	2後	30	2	○			○		○		
○			ピアノⅢ	ピアノⅡを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲の終了を目指す。	2前	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			ピアノⅣ	ピアノⅢを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲終了を目指す。	2後	30	2		○		○			○	
○			こどものうたⅠ	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた）。等の弾きうたいが出来るようにする。	2前	15	1		○		○				○
○			こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に、保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。	2後	30	2		○		○				○
○			介護概論Ⅰ	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。	2後	15	1		○		○				○
○			ペン字Ⅱ	個人用の実物大手本を使用し、就職に向けての履歴書の完成を目指す	2後	15	1		○		○				○
○			就職指導Ⅰ	就職活動に向けての知識と就職活動のルールを学び、次年度より始まる就職に向けて意識を高め、事前準備を進める。	2後	15	1	○			○				○
○			日誌指導Ⅲ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2後	30	2		○		○				○
○			施設実習論Ⅱ	保育実習Ⅰ（施設）開始から事後までの一連の流れにおいて、必要な準備と課題、目標の設定方法、記録の書き方等重点を学ぶ。	2前	15	1	○			○				○
○			幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。	3後	30	2	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
○			就職指導Ⅱ	就職活動に向けて具体的な試験対策（履歴書指導、面接指導、マナー等）を行い、志望先へ就職することを目指す。	3通	30	2		○		○				
○			カリキュラム立案Ⅱ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案・1日案を立案する。	3前	30	2		○		○				
○			リトミックⅠ	表現活動を行う際の保育者として必要な基礎的音楽能力を習得する。あわせて、幼稚園教育実習に向け、音楽表現の方法を体験しながら学ぶ。	3前	15	1		○		○				○
○			介護概論Ⅱ	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身に付ける。	3前	15	1	○			○				○
○			保育活動Ⅲ	幼稚園実習に向けて、各々年齢や、ねらいに基づいた活動について、実践しながら留意点などを考え、集団遊びなどの一斉活動の指導法について学ぶ。	3前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅤ	保育の場で必要な音楽を表現豊かに演奏する技術、能力をさらに高める。	3前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅥ	保育の現場で必要な実践的音楽技術や豊かな表現で演奏する知識を広め、能力をさらに高める。ソナチネ以上を目指す。	3後	30	2		○		○				○
○			文章表現	自己PRにおける文章作成法指導する。その後個人の適正に合わせて作品を校正することにより、文法的にも誤りのないより明確な自己主張となる文章を作成するための技術獲得を本講義の要旨とする。	3前	15	1		○		○				○
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める。こどもや保護者、職員との関わりについて、演習を通して学ぶ	3後	30	2		○		○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			実用心理学	保育という職業やそれに関わる人間関係などの実践に応用できる心理学の知識について、主に講義形式で学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○	
○			保育所保育指針	保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握し、深く学習することを通し、専門的知識を高める	3 後	30	2	○			○		○		
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅡを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（こどものうた200）を拡大する。	3 前	15	1	○			○			○	
○			こどものうたⅣ	こどものうたⅢを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。	3 後	30	2	○			○			○	
○			障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。	3 後	15	1	○			○			○	
○			手話	手話で日常会話を学びながら、歌や劇などに応用してコミュニケーションの幅を広げる。さらに、聴覚障害者の文化や生活上の問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。	3 後	15	1	○			○			○	
○			パソコン	効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるよう練習し、実務に役立つ操作方法を実習する。	3 後	15	1	○			○			○	
○			保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現を学ぶ。	3 後	15	1	○			○			○	
○			幼児の音楽Ⅱ	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法など現場対応に応じた授業を実施する。	3 後	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
	○		手づくり絵本	3年間学んだ集大成として、子ども達が見て触れて楽しく遊べる世界を1冊の布の絵本として表現する。	3後	30	2		○		○			○	
	○		折紙Ⅲ	折紙Ⅰ、Ⅱで習得した技術を基に平面、立体、壁面、自分の作る作品に適した手法を立案し、卒業製作を行う。	3後	30	2		○		○			○	
	○		育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。	3後	60	4		○		○			○	
	○		人形劇	人形劇の作り方の基本を学び実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動活かし、作成、発表する。	3後	60	4		○		○			○	
	○		ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。	3後	60	4		○		○			○	
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力（ピアノ、歌、踊り、製作など）を活かし、発表する。	3後	60	4		○		○			○	
○			保育者のマナー	幼児保育・教育現場で保育者としてのマナーについて理解を深める。保護者、職員、来客等との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	3後	30	2		○		○			○	
○			日誌指導Ⅳ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	3前	15	1		○		○			○	
合計				138科目											3,239単位時間(188単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。